

囲いやま森の会 活動記録

2008.3.4 野口 功

日 時: 2008.3.1 (土) 10~12時 天気: 晴

記録・写真: 山田幸子

観察記録

「大雨や強風など、気象条件が悪かった日の翌日は、鳥は一生懸命餌を捕っていますよ」という、鳥仲間の言葉を思い出し、囲いやまに行ってきました。アツ、シジュウカラが入口広場で遊んでいます。テーブルの上に乗っていた2羽は、私が近づくとヤマコウバシの枝に移り、さかんにチョコチョコ動き回っています。そのうちスギの木に止まり、まるでコゲラのように幹をのぼり始めました。ヤマガラも寄ってきて、同じスギにとまっています。アカハラは久しぶりに観察しました。ジョウビタキは小屋の前に降りてきて、ウロウロしています。誘われて写真撮影を試みると、からかう様に飛んで行ってしまいます。シロハラは1羽、イヌシデの上の方にとまって、孤高の人風。

本川達夫さんは「ゾウの時間 ネズミの時間」のなかで、動物のサイズが違くと機敏さが違い、寿命が違い、総じて時間の流れる速さが違ってくる。と書いていますが、いたずらっこの小鳥たちに流れている時間はどのようなのでしょうか?

昨日・一昨日と強風が続き、今日は餌とりで大忙しのはず。(私をからかっている暇はないでしょう、たくさん餌を捕ってしっかり生きていってね。) そう思っていると、アオキの陰で、「チツ・チツ」と鳴くアオジの音が聞こえてきました。キノコのホダ木を観察していると、エナガがコナラの木で遊んでいます。青空・エナガ・少し肌寒い風・・・日常の喧騒を忘れた非日常の世界に浸って、幸せなひと時でした。

1)ジョウビタキは冬になると、住宅地や公園に現れるきれいな鳥です。「ヒッ、ヒッ」と鳴き、尾を上下に振るしぐさを、スズメくらいの大きさの鳥です。あまり人を恐れないので、結構近くで観察できます。冬でも活動するクモなどを餌にします。

2)ヤツデの結実が観察できます。まだ未熟な実ですが、熟すと黒くなります。囲いやまには、ヤツデの花粉を運んでくれる虫がたくさんいるということになりますね。

3)ムクノキの根元近くで、ヒコバエが育っています。ヒコバエとは、上の枝が枯れたり病気になったりしたので、それにかわって栄養を作るために、根元から出てきた小枝のことです。ヒコバエが出ているということは、木がピンチから脱出しようとしていることなのだそうです。

ムクノキはケヤキに似たザラザラした葉です。実は熟すと黒くなり、甘くて美味しいので、鳥たちには人気があります。人が食べても、自然の味で美味しいですよ。

4)アオキは実がたくさん残っていました。鳥たちには人気がないのでしょうか?ムクノキと随分違います。

5)ミズキの新芽が観察できます。真っ赤でとてもきれいです。ミズキは、春先に枝を切ると水が滴れ落ちるため、この名前がついたそうです。

6)コナラの芽生え どうしてこんな所で芽をだしてしまったのでしょうか。

7)スギの雄花と雌花が観察できました。丸い実の様なものが雌花です。そして花粉症の犯人が雄花、見るだけでくしゃみが出てくるようですね。

開花植物

草本 オオイヌフグリ・ヒメオドリコソウ・コハコベ・ミドリハコベなど

実のついている植物 キツタ・マサキ・アオキ・ヤツデなど

鳥 ヒヨドリ・アオジ・コゲラ・シジュウカラ・エナガ・シロハラなど

キノコ スエヒロタケ・ハチノスタケ・カワラタケ・アラゲキクラゲ・キクラゲ・エゴノキタケなど

虫 ナナホシテントウ・クモ

困いやまの森

2008.3.1(土) 山田幸子

季節は三寒四温、スギやヒノキの花粉が飛散しています。花粉は 200km も離れた所から風に乗って飛んできます。

今年は去年の 2~3 倍の量ですか？



春を待つ木々



スギの雌花と雄花



コナラの芽生え



シュンランの花芽



ミドリハコベ



ヒメオドリコソウ



オオイヌノフグリ



仲良しのアオキの実



ヤツデの未熟な実



ムラサキシキブの冬芽



ミズキの新芽



ムクノキのひこばえ



鳥の羽



葉を分解する菌



シイタケ栽培のホダ木